



ゆきうさぎ

YUKI USAGI

いわや
岩谷医院会報
第2号

平成14年9月10日

あっという間の開院3ヶ月

岩谷医院は本年5月14日の開業以来早いもので3ヶ月がすぎました。この間登録された患者さんの数は300人を超え、現在も毎日少しずつではありますが新しい患者さんが来院され、口コミの輪も広がっているようです。こうした地域の方々の期待に応えるべくスタッフ一同張り切って毎日の診療に当たっております。『ゆきうさぎ2号』をお届けします。この会報が少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。

● ● ● ヒヤシンス医療をめざして ● ● ●

院長より一言

ひらかれた、やさしい、しんせつで、すぐれた医療
ヒヤシンス医療をめざして

開業3ヶ月がすぎ、手探りで始まった診療所運営も皆様の暖かい励ましとご協力を得ながら何とか順調に来ております。毎日の少しずつの前進が大事と一日、一日を大切にしながらスタッフと頑張っております。

診療所の診療はつい3ヶ月前までの大学での心臓血管外科手術中心の生活とは大きく変わりましたが、患者さんと膝を突き合わせながらの一对一の診療はまさに人間としてのふれあいであり、これが医療の原点ととらえ、緊張しながらもやりがいのある毎日を送っております。

この3ヶ月の間にいろいろな患者さんが来院されました。自分の専門領域は循環器系ですが、それ以外の患者さんも多くいらっしゃっています。情報をできるだけ入手して適切に対応するように心がけていますが、専門の先生に診ていただいたほうが良いと判断したときには、患者さんのご意見もお聞きしながら他院を紹介するようにしています。こういう時は大学で費やした長い期間が役に立っているように思われます。病院、医院を問わず適切な先生を紹介できるのもいろいろな分野のたくさん先生とのお付き合いのおかげと思っています。



ある日の診察室風景

外科的な処置に関しては、開院にあたって、近くの方が怪我などで来院されることも考え、簡単な処置の器具を揃えました。もと外科医のささやかなブライドかもしれませんが、早速何人かの方の創処置に役立ち、やはり準備しておいてよかったとうれしく思っています。

まだ短い診療経験ですが、そのささやかな経験から、最初に書きましたが、医院のモットーを「ヒヤシンス医療を目指して」といたしました。きわめて当たり前のことかもしれませんが、初心忘るるべからず、患者さんの立場に立った医療を常に肝に銘じながら、がんばっていきたく思っています。地域の皆様に愛される医院を目指しますので、どんなことでも相談していただき、また忌憚のないご意見を聞かせてください。

岩谷医院院長 岩谷 文夫

『岩谷医院に期待して』

太田町商店街復興組合理事長 小島 衛

太田町商店街は昭和初期より農工具修理製造業、精油所、製粉業、製糸工場などの立地した環境のなか、従来の商店とともに自然発生的に形成されました。

昭和26年、道路舗装工事をきっかけとして、太田町商店街が設立され、今日に至っております。その後、新幹線が開通し、車社会時代の到来とともに、あずま陸橋が作られ、福島市東西の大動脈の役割を果たしました。そしてイトーヨーカ堂のオープンでJR西口周辺は大きく変貌しました。平成15年6月には商工業復興センターがオープンされる予定であり、今後西部地区はさらに大きく変わることとなります。すなわち、JR福島駅を中心とした東西中心市街地活性化が大いに期待されます。

そんな中、今年の5月14日、太田町には、実に25年ぶりの内科、外科の医療機関として、福島医大心臓血管外科の助教授をされていた、岩谷文夫先生が開業されました。太田町、矢剣町はもとより、近郊の多くの人々が、安心して暮らせると喜んでおります。さらに医院の隣には太田町郵便局も開局、活発な事業を進めており、利便性もよく、地元の方は勿論、マンションに住まわれている方々にも、たくさん利用していただいております。

私たちは、「商住一帯」、「住みつつける町作り」を基本理念としております。太田町にきてよかったと言われる町作りにこれからも取り組んでゆきたいと思っております。

これからも岩谷医院が太田町商店街をはじめ、地域住民のなくてはならない医療機関として、健康のご指導、ご助言をお願い申し上げます。



心の友、集い、開院を祝す、として「岩谷先生を囲む夕べ」が開かれました。出席された小丸孝也さんが会の様子について寄稿されました。

伺われました。

今後地域の人々とのふれあいと超高齢社会のホームドクターとして大いに活躍されんことを祈念して祝賀会は閉会しました。

開院を集い祝いし親（心）友の
ほのぼの語る心（しん）の医療を

シンボルの心和ますスズランの
心通わす地域医療へ

地元町内の活性化も担う、いわば「医商一体」を標榜し開院の岩谷医院は早3ヶ月がすぎようとしています。「心の友」医院経営の繁栄を期し8月10日、市内にて祝賀会を開催いたしました。「集いの中心メンバー」は昔（約20年前）県畜産試験場において岩谷先生が人工心臓の実験的研究を行ったときの畜産関係者であります。この畜産関係者は約10年前より岩谷先生に加え畜産業発展に功績のあった渡辺正市先生の「お二人を囲む会」を年2回開催してまいりました。

このたびこの「お二人を囲む会」にさらに賛同者に働きかけ岩谷先生を囲む夕べと銘打って患者として何ができるか、先生と膝を交えて論談風発、高齢福祉のなかでの「生きがい対策」、「高齢者のボランティア」など遅くまで話し合われました。招福の象徴「ゆきうさぎ」を会報のネーミングにされた先生の柔軟な発想はすばらしいものがあります。地域に開かれた、しかも患者との架け橋になるべく会報の内容充実を参会者全員が期待していることが



岩谷先生を囲む夕べ 記念撮影

『私の目指す道』

茂木 由季枝

今まで、出会った人たちに胸を張って「私はこうゆうことを生きています」と言える様な人間になりたいと思います。

私が巡り会った多くの人はそれぞれに尊敬できるところがありました。たとえ嫌いだと思っただ人でも、ここは凄いいという点を必ずと言っていいほど持っていました。

皆が持っている気が付いた時、「自分はどうかのだろう、なにか人に凄いいと思われるようなものがあるのだろうか」と疑問を抱くようになりました。

私は、生まれつき心臓が悪く幼少のころから入院や手術をくり返して二十一年を生きしてきました。少し前までは、病院は自分の別荘のようなものだとさえ思っていました。小さいころ手術を前にして笑っている私を同室の人たちは、あの子はこれから手術をするのに平気そうに笑っていられるのはなぜだろうと、不思議に思っていたのだと退院してから聞きました。

笑っていられたのは、私を生まれたところから知っている岩谷先生を始め病院のスタッフの方々が温かく見守っていて下さったおかげだと思います。例えば私が同室の人と仲良くなれなくて落ち込んでいたとき、それを察して私のところにために来て声を掛けて下さった看護婦さんにもいました。その時はとても救われました。それに、私が落ち込まないようにと家族が支えてくれたおかげだと思います。

それなのに、私は五回目の手術の前までは自分がこれから生きていくとは思っていませんでした。だから将来のことなど、まったく考えていませんでした。去年の六月に五回目の手術後、ICUで岩谷先生に「よく頑張ったね」と握手をされて初めて私は、これから生きていくのだと、実感しました。でもそれは喜びよりも突然目の前に迷路が広がったような感じでした。

そのことがあってから、他の人はどの様にして生きてきたのだろうと興味を持つようになりまし。一緒に入院して出会った人や、私が入会している「心臓病の子どもを守る会」に入っている人たちに対する見方が変わりました。入会して間もないころは、ただ病気の子どもをもった親は凄いなあとしか思っていなかったのに、今は自分の親も私を育てるのにこんな大変だったのだろうかと考えるようになりました。それと同時に、これから育っていく病気の子ども達の為になにか出来ることはないだろうかと思うようになりました。

考えて出した答えは「道を創ってあげたい」でした。何故なら、心臓が悪いというだけで小学校に入るのにも大変だからです。私の両親も私が小学校に上がる前から何回も学校に呼ばれて、養護学校に入れたほうが良いと言われたそうです。今、会に入っている子ども達の両親も学校に入れるために苦労しています。

だから私は、自分が社会に出て行くことによって、病気の子ども達がこれから歩みやすいようにしたいです。それが私のこれから目指す道であり、第一歩の踏み出したと確信しています。

患者さんの情報コーナー

坂大りんさん…毎月外来診察時に「ゆきうさぎ」の今月分ですといわれ、素晴らしい短歌、俳句、川柳を持ってこられます。その素敵な感性にはいつも驚かされます。

この度、りんさんは、平成13年12月1日にお生まれになられた敬宮愛子さまのご誕生を記念して朝日新聞社が全国募集した短歌、俳句コンクールに応募され、俳句の部で見事入選されました。おめでとうございませす。その入選句を披露させていただきます。

初声を 運び来るかな 桃の花

3ヶ月の間にいただいた短歌、俳句、川柳の中から1つずつ選ばせていただきました。これからもよろしく願っています。(編集部)

短歌

心音も暑さに耐えて脈々と 安堵の姿振り返り行く

俳句

打ち上げし いずこに流る 遠火花

川柳

球宴に 手毬ける足 千鳥著

土屋英希さん：60の手習いで始められたとか。その油絵が第15回上野の森美術館、日本の自然を描く展に見事入選されました。おめでとうございます。

鶴ヶ城と桜の絵は桜花爛漫と題され(写真)、現在展示会場に披露されていますが、今年中には岩谷医院に飾られることとなります。楽しみにお待ちください。



第15回上野の森美術館日本の自然を描く展(2002) 桜花爛漫(会津若松・鶴ヶ城址)

★ 医院からのお知らせ ★

【駐車場について】

医院前の駐車場（9台分）がいっぱいときは道路の反対側のライフ調剤薬局の駐車場も使用可能です。受付に声をかけてください。

【待合室の温度調節について】

受付にて調節していますのでお気軽に希望をおっしゃってください。

【市民検診について】

7月1日から市民検診が始まりました。医院でも基本検診、肺がん一次検診、大腸がん一次検診、循環器二次検診を行うことができます。ご希望の方は電話などで予約をとってお出かけください。採血がある方は絶食にておいでください。期間は11月30日までです。

【予約制について】

当分の間予約は日にと午前、午後のいずれかのみになっています。受付のカウンターにその日の予約人数をお知らせいたしますので待ち時間の参考にしてください。また患者さんの病気の状態によっては順番が変わりますので、ご了承ください。

【次回来院時の検査について】

診察後、次回来院予約日を決めるときには、できるだけ検査の内容をお知らせするようにしています。検査は必要最低限にと考えていますが、自己負担額にも関係してきますので、遠慮なくご自分の希望をおっしゃってください。又会計の際、お渡しする領収書の内容についてお知りになりたい方は受付におたずねください。ご自分のことですから納得いくまでお聞きください。

【患者負担金について】

今年の10月から70才以上の方が1割負担になります。来年4月からはサラリーマン家族の窓口負担が3割になるそうです。

【掲示板】

待合室の左手奥にありますので時々ご覧ください。

ライフ調剤薬局より (TEL: 024-535-1731)

はじめまして、岩谷医院前のライフ調剤薬局です。岩谷医院の処方箋、またこの病院の処方箋でもお受けいたしております。具合が悪かったり、お薬をもらう時間が長くて大変な方々に、ご自宅まで配達サービスがあります。福島市近郊ならどこでも配達いたしますので、処方箋をお出しになるときに届けてほしい時間帯をお教えてください。一般大衆薬も取り扱っておりますので、病院の薬との飲み合わせとか、副作用についてなど、何でもご相談ください。スタッフ一同、正確、迅速、親切をモットーに頑張っております。よろしく願いいたします。

編集事務局より

小丸孝也さんからは会報名の「ゆきうさぎ」に関していろいろ貴重な資料をいただきました。当初、あまり深く考えずに福島市の春のシンボルとして医院の会報名としてつけさせていただきましたが、「ゆきうさぎ」にはいろいろな思いが込められていることがわかりました。小丸さんへの感謝も込め、参考までに資料の一部を掲載させていただきます。会報の充実がそれに報いることと気持ちを新たにしております。

雪ウサギ [資料]

一般に盆の上などに雪を山型に盛り、ナンテンの赤い実で眼を、ユズリハの葉で耳を作って、ウサギの形に模したものを指す。代表的な子供の雪遊び。ところがこれは春を待つ呪物だったという説もある。陰陽五行に照らすと、雪の白が冬の水気、ユズリハの青が春の木気、ナンテンの赤が夏の火気をそれぞれ表し冬から春そして夏へと「陽」がたどる一年の推移を示すのだという。(スタジオ、ニッポンカ: 百分の一科辞典、ウサギ (小学館文庫Y一—4)、小学館、1999、p.66)

老いたれば 作ってみたる 雪兎

飯島晴子さん 作

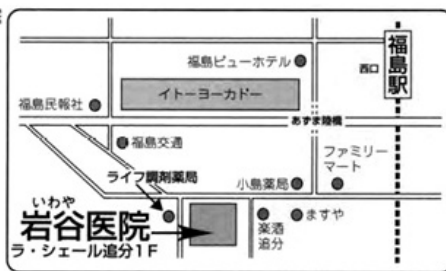


吾妻山のゆきうさぎに関して (院長より)

吾妻山のゆきうさぎは正式(?)には種まき兎とよばれ、福島の民話として昔から語り継がれてきました。平成9年5月10日には「種まき兎伝説発表会」が福島市で催され、蓬莱町三丁目(もと田沢字兎田)には記念碑が建立され当日除幕式も行われています。認識不足で申し訳ありませんでした。

次号では民話種まき兎の全文(800字ほど)が掲載できればと考えていますので楽しみにお待ちください。

ゆきうさぎ 第2号
平成14年9月10日 発行
編集発行 岩谷医院
〒960-8068 福島市太田町17-27
ラ・シェール追分1階
TEL 024-528-7770
FAX 024-528-7780



交通: 福島駅西口より 徒歩7分

★ 診療時間 ★
平日 (木曜日を除く)
午前9時～12時 午後2時～5時30分
土曜日
午前9時～午後2時
休日
日曜日・祝祭日・木曜日
★ 診療項目 ★
内科疾患・循環器疾患・動脈硬化疾患・先天性心疾患・人工弁管理・ペースメーカー管理・人工血管管理・基本検診 など